

1 教育目標

(1) 基本目標

将来にわたり健やかに生き、社会の一員として信頼され、自ら学び続ける力を身に付け、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

「じょうぶで 品よく 実力のある子」

○**じょうぶ** <体 健康に生き抜く力>

・心身の健康を大切にし、困難に直面しても粘り強く向き合おうとする児童
(身体の健康・生活習慣, 心の健康・自己調整, 安全管理・自己管理など)

○**品よく** <徳 人として信頼される在り方>

・場に応じた言動ができ、他者を尊重し、社会の一員としての自覚をもって行動する児童
(礼儀・規範意識, 人間関係・思いやり, 主体的に判断する力など)

○**実力のある** <知 自立して学び続ける力>

・自ら考え表現し、身に付けた知識や技能を活用し社会に生かし、多様な他者と協働し課題を解決しようとする力をもった児童
(基礎学力, 思考力・表現力, 学び続ける力, 協働して解決する力など)

これら3つの児童の姿をそれぞれに実現するのではなく、相互に関連付けながら、一体的に育成することとし、全教育活動を通して児童の成長を支え、児童・保護者・地域と共有していく。

2 学校経営の理念

教育目標の具現化に向け、校訓である「やなせ魂『ともに進む』」の精神のもと、児童にとって「安心して学べる学校」、教職員にとって「働きたい学校」、保護者及び地域住民が「信頼できる学校」を目指す。

(1) 児童にとって「安心して学べる学校」とは、児童一人一人の教育的ニーズを理解した上で、適切な支援・指導をとおして、児童が互いのよさに気付き、認め合い、いきいきと生活できる学校であると考え。そのため、教職員は、児童一人一人に寄り添い、伴走しながら「存在を認める、努力を褒める、挑戦へと励ます」指導を実践し、児童の自己肯定感の更なる高揚を図る。そして、全ての教育活動をとおして豊かな体験活動を重視し、活気と潤いのある学校づくりを推進する。

(2) 教職員にとって「働きたい学校」とは、風通しよく、心理的安全性が確保された職場環境の中で、教職員が相互に支え合いながら質の高い教育の実現を目指す学校であると考え。そのため、報告・連絡・相談を徹底し教職員個々の持ち味が生かされ、活気にあふれ高い同僚性を発揮できるプロ集団づくりを推進するとともに、働き方改革の視点に立って職場環境の改善や校務DXの推進に努める。

(3) 保護者や地域住民にとって「信頼できる学校」とは、児童の生命や人権が守られ、教職員が自信と信念をもって子供と向き合う学校であると考え。そのため、安全・安心な教育環境づくりに努めるとともに、教職員は、確たる教育理念のもと、職務を遂行し、学校教育の目標を家庭や地域と共有しながら、理解と協力・参画を得て『地域に愛され、地域の中核となる学校づくり』を推進する。

3 学校経営の方針

「教育基本法」「学校教育法」「学習指導要領」並びに「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」「令和8年度指導の重点」の趣旨や内容を踏まえた上で、本校の学校評価や各種調査の結果を参考に、以下の方針のもと学校経営の充実に努める。

- (1) 教育活動の質の一層の向上を目指し、カリキュラム・マネジメントにより学習効果の最大化を図るとともに、本年度の重点目標等について学校と保護者、地域住民が共有できるようにしながら地域の教育力を最大限に活用して特色ある教育活動を推進する。
- (2) 「じょうぶで」とは、心身ともに健康で、安全な生活習慣を身に付けるとともに、困難な場面にも粘り強く向き合おうとする姿を指す。日々の教育活動を通して、体力の向上と心の安定を図り、自己管理能力の育成を目指す。これからの社会では、心のレジリエンス、ストレス耐性、自己管理能力が一層求められ、まさに未来社会の生きる力の土台となる。
- (3) 「品よく」とは、礼儀や思いやり、節度ある言動を大切にし、自分も他者も尊重できる態度を指す。あいさつや言葉づかい、約束やきまりを守る姿勢を基盤に、よりよい人間関係を築こうとする力を育成する。AI や技術が進んでも、信頼される人材、多様な他者と協働できる人材、他者を尊重できる人材の価値は、今後一層求められる。
- (4) 「実力のある子」とは、基礎・基本の学力を確実に身に付けるとともに、課題を見付け、自ら考え、表現し、協働して解決しようとする力を指す。学ぶ意欲を高め、学んだことを生活や社会に生かすことができる資質・能力の育成を図る。実力とは、単なる知識量ではなく、学び続ける力、問題解決力、表現力、活用力を含む言葉である職業が変わり続ける社会にあって「学習する力」である。
- (5) 「信頼される学校宣言」のもと、全ての教職員が、高い倫理観、人権意識と使命感をもつとともに、真摯な態度で自己研鑽に努め、児童一人一人に寄り添い、自信と信念をもって誰からも信頼される教職員として職務に励む。
- (6) 教職員が健康でいきいきとやりがいをもって勤務し、児童と向き合いながら質の高い教育を実践できるよう、文科省の示す所謂「3分類」を踏まえ、教職員の働き方改革の視点に立ち、以下の目標を掲げ職場環境改善を推進するとともに、業務量管理・健康確保措置の実施に努める。

【目標】

- 1 教員の時間外在校等時間を1か月で45時間以内、1年間で360時間以内とする。
(令和14年度末)
- 2 児童と向き合う時間を確保できている教員の割合90%を目指す。(令和14年度末)
- 3 時間外在校等時間が1か月80時間を超える教職員の人数0人を目指す。(令和9年度末)

- (7) 旭地域学校園小中一貫教育である「地域に愛される旭っ子」の育成を最重点目標として推進するとともに、学校地域協議会との連携強化により地域とともにある学校づくりを推進する。

[旭地域学校園教育ビジョン]

「地域に愛される旭っ子」の育成 ～地域との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 国、県の法令や指針、市の推進計画、スタンダード、指導の重点などを踏まえ、学校経営方針に基づき、知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し、教育目標の達成を期する。
- (2) 社会の変化へ対応できるよう、教育活動相互の関連や地域の教育資源の活用などにより、知識及び技能、思考力・判断力、表現力等、学びに向かう力や人間性等を育成する。
- (3) 児童や学校経営に関する各種調査結果を、授業や学校経営の改善に生かし、教育活動の見直し、校内外の資源活用など、実態に即した創意ある教育課程の編成につなげる。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

(1) 学校運営

全教職員が組織力を高めながら活気ある学校づくりに努め、地域の教育力をこれまで以上に有効に活用して特色ある教育活動を推進するとともに、学校の情報を積極的に発信し、地域協議会と一体となって、地域とともにある学校づくりを推進する。

(2) 学習指導

- 自ら問いを見出し、かかわり合いを通して協働的に学ぶ授業展開の工夫
- 児童が互いに頑張りを認め合い、自己の成長を感じられる振り返りの実践
- 基礎・基本定着のための朝の学習タイムの実施と家庭学習の習慣化
 - ・教員の授業コーディネート力をもとにした「問いかけ」の習慣化による、児童に「考えさせる」授業の実践
 - ・学力調査等の結果を分析・活用した授業改善

(3) 児童生徒指導

- 児童の自己肯定感の更なる高揚に向け、「存在を認める、努力を褒める、挑戦へと励ます」指導の一層の推進
- 進んで元気なあいさつができるようにするための、児童主体のあいさつ運動の充実
 - ・すべての児童が楽しく明るく生活できるようにするためのいじめゼロ運動の推進
- 平常時の児童指導を徹底し、先手あいさつ、履物そろえ、語先後礼等の基本的な生活習慣や判断力を身に付け、相手を思いやる態度の育成
 - ・児童の傍らに立ち、児童の声に耳を傾け、児童の思いに寄り添いながら伴走する支援の推進

(4) 健康（体力・保健・食育・安全）

- ・自分の命を守る行動力を身に付けるための、安全指導の推進
- ・自らの健康を管理する力を身に付けるための、保健教育と食育の推進
- 進んで運動し体力を高めるための、外遊びの奨励や各種頑張りカードの活用
 - ・心身のたくましさをはぐくむための児童会イベントの実施

6 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組 別様式

7 特色ある学校づくり等に関する取組

(1) 育てたい資質・能力

将来に渡り学び続ける意義を理解し、関わり合いを通して豊かな心を育て、心身ともにたくましく、粘り強く取り組む態度

(2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

【じょうぶで】

- ・元気っ子健康・体力チェックの結果を踏まえた、運動の日常化のための取組と授業改善
- ◇児童が自ら意欲をもって取り組める水泳・縄跳び・鉄棒の実施と休み時間の外遊びの奨励
- ・関係機関と連携協力した交通安全教室、不審者を想定した避難訓練・防犯教室等の実施
- ・健康や体力に関する自己目標の設定とカードを活用した自己評価の実施

【品よく】

- ・児童会を中心としたあいさつ運動の推進
- ・いじめゼロ運動の推進と、いじめアンケートやQUの活用
- ◇縦割り班での異学年交流による思いやりや感謝を育てる「やなぜフェスティバル」の実施
- ・学校支援ボランティアへの感謝の気持ちを伝える「ありがとうの会」の実施
- ◇地域の教育資源を生かし、豊かな体験活動による心の教育の推進
- ◇作物を大切にすると心と勤労への意欲を育てる「農園活動」の実施
 - ・朝の読書タイムやボランティアによる読み聞かせなど、本に親しむ環境づくりの充実
- ◇幼保小連携の積極的な推進（幼稚園との交流）

【実力のある子】

- ◇地域の教育資源・人材を活用した体験学習や宮っ子「夢」教室（第6学年）、まち探検（第2学年）等の実施
- ・かがやきルーム、特別支援学級（いきいき学級、相談学級）と連携した特別支援教育の推進
- ・基礎・基本を確実に定着させるための朝の学習タイムの実施
- ・広い視野で社会への関心を高め、共生感覚を促す国際理解教育

8 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）

①基本的考え

教育目標の具現化に向け、学校・家庭・地域の関わりが大切であることから、学校のニーズを発信し地域からの支援を受けるなど、学校を、共に学び育つ場とする。

②主な取組

- ・地域協議会の各種ボランティアの得意分野や専門性を生かした教育支援活動の充実
- ・地域の関係団体と連携し、児童が多様な交流や体験をする機会の確保
- ・地域の人材、自然・施設等などの教育資源を有効に活用した体験活動の実施

(2) 小中一貫教育・地域学校園

①基本的考え

地域学校園教育ビジョン「地域に愛される旭っ子」の育成を具現化するため、小中教職員がより相互理解を深めながら義務教育9年間を見通した教育活動を推進するとともに、学校地域協議会との連携強化により地域とともにある学校づくりを推進する。

②主な取組

- ・カリキュラムの地域学校園化による義務教育9年間を見通した各教科等の指導
- ・地域の教育資源や人材を生かした宮っ子心の教育、宮未来キャリア教育の推進
- ・教科分科会を通じた各教科の小中一貫した指導の実現と教員の指導力向上
- ・学校行事や地域行事における中学生の参加協力
- ・小中学校間での一層の情報共有、相互支援による一貫した児童生徒指導の強化

(3) 不登校対策

①基本的考え

「子供に寄り添う学校づくり、抱え込まずにみんなで支援」の考え方のもと、「存在を認める、努力を褒める、挑戦へと励ます」指導を推進し自己肯定感の高揚を図りながら、互いに尊重し、認め合う温かな人間関係づくりを推進する。また、不登校を生まない学級・学校経営に努めるとともに、不登校及びその傾向がある児童及び担任への組織的な支援を行う。

②主な取組

- ・相談学級との連携による、一人一人のニーズにあったきめ細かな指導の推進
- ・学級担任はもとより、全教職員による児童一人一人の思いに寄り添う姿勢と学習指導、生活指導両面で、児童の「存在を認める、努力を褒める、挑戦へと励ます」指導による自己肯定感の高揚に向けた指導のより一層の推進
- ・アンケート、QU、教育相談等の結果の分析と活用による不応適傾向のある児童の早期発見。また、不登校傾向や兆候の児童に係る、早い段階での校内全体の情報共有（ケース会議）と組織的な対応による担任サポート体制の充実
- ・SCや関係機関、家庭との連携による不登校の早期発見と効果的な対処
- ・児童がSOSを発信できる環境づくりと、ゲートキーパーとしての教職員の資質向上
- ・「U@りんくす」やICTを活用した、連絡・学習支援等の個に応じた適切な対応

(4) GIGAスクール構想

①基本的な考え

GIGAスクール構想を推進し、1人1台端末や高速通信ネットワーク等のICT環境の活用を図りながら、個別最適な学びや創造性をはぐくむ学びの実現と、学校の業務負担軽減を目指した校務DXを見据えた取組を推進する。

②主な取組

- ・協働学習ツールやAIドリルを積極的に活用した教科の学びを深める指導の充実
- ・不登校児童支援や特別支援教育等、個に応じた多様で適切なICTの活用
- ・デジタル・シティズンシップをはぐくむ情報モラル教育の推進
- ・教職員の指導力向上を目指す研修の充実とICT支援員の効果的な活用

(5) 宇都宮学

①基本的な考え

郷土や地域を愛し、誇りをもつことができるよう、社会科，総合的な学習の時間等を通じて宇都宮の歴史や伝統文化，産業等への理解を深める学習の充実を図る。また，郷土への愛情と誇りをもてる素地を養うための，地域への感謝など，身近な場面と関連した指導の推進

② 主な取組

- ・地域の歴史や伝承などを活用し，道徳地域教材と関連した指導の充実
- ・総合的な学習の時間や社会科の年間指導計画の見直し
- ・郷土の文化財，伝統文化，食文化等に触れる機会の充実
- ・地域の人材を活用した教育活動や交流活動の充実